

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

大阪大学心臓血管外科での国内外科研修を終えて

宮崎大学心臓血管外科

森 晃佑

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修プログラムに応募し、9月30日～10月13日までの2週間、大阪大学医学部附属病院心臓血管外科で研修をさせていただきました。私はこの研修へ応募した時点では卒後8年目で、心臓血管外科として修練を開始して2年が経過したばかりと経験が浅く不安はありましたが、このような機会はなかなか得られるものではなく、上司の勧めもあり思い切って応募させていただきました。自施設では行っていない補助人工心臓、心臓移植といった治療を直接見てみたいと思い、大阪大学心臓血管外科を選択しました。

大阪大学心臓血管外科は大きく分けて成人心臓外科、血管外科、小児心臓外科の3つのグループに分かれており、私は主に成人心臓外科グループで手術の見学（手洗いして手術に入ることもできました）やカンファレンス、回診へ参加させていただきました。

初日の朝、術前カンファレンスで研修をスタートしたのですが、ここでいきなり驚かされました。症例提示のスライドが英語で書かれているところまでは想定内でしたが、プレゼンテーションまで英語で行われていました。自分と同年代の先生方がスラスラと英語でプレゼンテーションを行っている姿に自分の不甲斐なさを感じました。その後の教授回診で実際に心臓移植後の患者さん、補助人工心臓を装着している患者さんを診ることができました。植込型の補助人工心臓を装着している患者さんの多くは普通に病棟を歩くことができ、一見すると心臓が悪い方には見えなくらいでした。一方で、植込型補助人工心臓の患者さんはその管理も簡単ではないことを知りました。その中でも比較的多かったのがドライライン刺入部の問題で、一定の割合で刺入部感染をきたす症例があるようでした。感染や皮膚トラブルが起らないように毎日のケアやドライラインの固定位置の調整などはもちろん、最終的には患者さん自身で行ってもらわなければならないためその教育も重要であることを知りました。

手術の方では今回、補助人工心臓の新規植え込みの症例は見ることができませんでしたが、補助人工心臓のポンプ感染により補助人工心臓の入れ替えを行う手術に参加させていただきました。当然再手術のため癒着もありましたが、あっという間に人工心臓を露出し、体外循環の確立、感染部位の同定、人工心臓の摘出、新たな人工心臓の装着といった手技をスムーズにこなしていく様はさすがの一言でした。この症例では新たな人工心臓を装着した直後に急性肺水腫をきたし呼吸状態が悪化したため、ECMOを用いた右房脱血・左房送血のRVADを装着して手術を終了しました。術中の思わぬ変化にも迅速に的確に対応されており、補助循環を知り尽くした先生方だからなし得る技だと感じました。その他の症例でもIABP、ECMO、IMPELLAなどを使用し、患者さんの病態に応じて必要な補助循環をうまく組み合わせる、またそれらの導入や離脱のタイミングを逸さないというふうにより上手に管理すれば補助循環は非常に有用な手段になり得るということを改めて感じました。その他の手術でもsutureless valveを用いた大動脈弁置換術など、限られた施設でしかできない手技を見ることができ、大変有意義でした。

また、毎朝行われる回診も非常に印象的でした。澤教授をはじめ、上級医の先生方も参加されて毎朝ICU回診が行われるのですが、ベッドサイドで毎日のように活発な議論が行われていました。現在の病態、なぜそうなったのか、これからどうしていくか、次の手術のタイミングはいつかなど、当たり前のことではありますが、大阪大学でもチーム全員で患者さんを診ていくという形がきちんと確立されており、

医療の質の高さを感じました。

日々高度な医療を行っている中で、急患も積極的に受け入れていることにも驚きました。私が研修していた期間でも不安定狭心症や心臓腫瘍などの緊急手術がありました。日本の心臓血管外科医療の最先端を担っている大阪大学ですが、一方で急患や難しい症例を受け入れる最後の砦としての役割も果たしていました。

2週間という短い期間ではありましたが、大変充実した研修期間を過ごさせていただきました。心臓移植を見ることができなかつたのが残念でしたが、補助人工心臓などの治療を実際に見ることができ、より一層この領域に対する興味が増しました。補助人工心臓に関しては今後さらに普及し、自施設でも導入の必要性が出てくるものと考えられます。今回の経験を活かして今後の宮崎大学、宮崎県の心臓血管治療の発展に貢献できるよう努力したいと思います。

最後になりますが、今回研修を受け入れてくださった大阪大学心臓血管外科の澤芳樹教授をはじめ、お世話になった全ての先生方に御礼申し上げます。また、このような素晴らしい機会を与えていただきました日本臨床外科学会の跡見裕会長ならびに国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめとした同委員会関係者の方々、ご推薦いただいた宮崎県支部長白尾一定先生、宮崎大学心臓血管外科中村都英教授、ご支援いただいた当科教室員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。